6090

五月三十日

二一

第八師團 謀弘第一三三號

皇道挺身隊兵營宿泊狀況ニ關スル件報告

昭和拾年五月拾九日

第八師團長中村孝太郎

陸軍大臣林銑十郎殿

首題ノ件ニ關シ憲兵隊ヨリ左記要旨ノ通報ニ接シ師團ニ於テ調査セシ事項左處置別紙ノ通報告ス

左記

一、管内右翼分子ニ依リ結成セラレタル皇道挺身隊ハ「石川觀農社青年修養會」名儀ヲ以テ兵營宿泊ヲ計畫シ四月二十六日正午ヨリ二十八日迄二泊三日間歩兵第七聯隊ニ宿泊セリ

二、此間軍事教練ノ外皇道挺身隊員ノ座談會ヲ催シタルカ座談會中矯激ナル言動アリテ注意ヲ要スヘキモノアリ

陸軍大臣 10.5.22 後午

陸軍 10.5.25

陸軍 10.5.23

アジア歴史資料センター

01900

別紙

皇道挺身隊歩兵第十七聯隊兵營宿泊ニ關スル

件報告

一、皇道挺身隊ニ就テ

皇道挺身隊ハ石川觀農社青年修養會ノ別名ニシテ川原挺進隊ノ名稱ヨリ本團體名ヲ採リシモノノ如ク其趣意書並守則附錄第一、第二ノ如シ

該團體ハ結成後日尚淺ク其眞狀ヲ觀察スルコト能ハサルモ會員營内宿泊時ノ一般狀態ヨリ觀察セハ善良眞摯ニシテ尚思想的團體ト認メ得サルモノアリ

二、兵營宿泊ノ狀況

附錄第三ノ計畫ニ基キ石川觀農社（秋田縣ノ篤農家タリシ故石川力之助ノ設立セル農事研究ヲ主トセルモノ）ヲ中心トシテ各地方代表青年ヲ集メ兵營宿泊ヲ實施セ

陸軍

ントシ出願セシヲ以テ聯隊ニ於テハ之ヲ許可シ將校二名、下士官、兵若干名ヲ指導將トシテ任命セリ而シテ四月二十六日午前十一時半幹部以下百十三名秋田驛前ニ集合シ入隊シタルカ其大部ハ青年團、青訓服ヲ著用シタルモ中ニハ四十歳ニ近キ農民地方農會技手、在鄉軍人等ヲ含有シ何レモ熱心ニ指導ニ從ヒ四月二十八日正午過解散退營セリ

訓練事項ハ行事豫定ノ如ク第一日夜ハ乃木將軍ノ映畫ヲ視覽セシメ第二日午後ノ講演ハ友部國民高等學校長加藤完治ノ日本農民道ニ關スル講演ヲ聯隊將校以下ト共ニ聽講シ又第二日夜ハ下士官集會所ニ於テ座談會ヲ開催セリ

兵營内ニ於テハ毎朝　勅諭奉讀、遥拜、楠公ノ壁文暗誦等ヲ眞面目ニ實施シテ精神修養ニ努メ又指

導ニ從ヒ軍事教練ヲ熱心ニ實施シ其效果相當大ナル
モノアリタルカ如シ

二、座談會ノ狀況ニ就テ

座談會ハ縣下各地方ヨリ集合シ來タ相互一面識モ
ナキモノ多キヲ以テ兵營宿泊ノ機會ヲ利用シ會員相
互ニ意志ノ疏通ヲ圖リ且指導ヲ目的トシ許可ヲ得テ
富永中佐監督ノ下ニ實施セリ從ヒテ懇談ハ講話ヲ
主トシ指導的ニ實施シ併セテ各自ノ意見ヲ述ヘシ
メタルニ席上稍ヽ矯激ナル意見ヲ發表セシモノアリシモ
富永中佐ハ團員ノ心底ヲ洞察スル好機ナリト認メ
某程度迄之ヲ吐露セシメタル後之カ誤レルヲ正シ皇軍ノ本
義ヲ說示シ之ヲ指導セリ

座談會席上配布セル書類左ノ如シ

書名	部數	作製者

核心（昭九・一一號）	一	核心社
皇道挺身隊守則	一	鈴木眞洲雄
熟（解説書）	一	
皇道挺身隊趣意書	一	
連絡委員表	一	
北光	一	
改造對内案	一	不明
日本産業等ノ非常觀察	一	富永良男
創生	一	創生會本部
大亜細亜青年	一	大亜細亜日本青年同盟

四、地方ニ及ホシタル反響ニ就テ

イ、會員ノ兵營宿泊ニ關シ富永中佐ハ縣知事、經濟部長等ヲ訪問シ連絡セルニ知事、部長等ハ會ノ精神及兵營宿泊ニ依ル軍隊ノ指導誘掖ト會員修養ニ關シ賛

意ヲ表シ經濟部長ハ第二日午後ノ講演者加藤完治ノ兵營ニ伴ヒ來リ縣農民ノ更生ノ爲本團體ノ發展ヲ冀望スル旨述フルアリタリ

然レ共縣特高課等ハ本團體ヲ右翼團體トシテ密ニ内査ヲ進メアルカ如シ

∝、地方民心ニ對シテハ好影響ヲ與ヘタルモノノ如ク爾後團員其他ノモノヨリ兵營宿泊ニ關シ幾多ノ感謝狀ヲ聯隊ニ送リ來レリ又各地ニ漸次修養團體トシテ結成セラレントスル趨勢ニ在ルモノノ如シ

五、處置

イ、此種地方團體ノ營内宿泊並營内ニ於ケル會合ノ際ノ指導等ニ關シテハ將來特ニ注意ヲ周到ナラシム

∝、旅團長並聯隊長ノ報告ニ依レハ富永中佐ハ思想的ニ注意ヲ要スヘキモノヲ認メサルモ將來思想上ノ容疑

陸軍

アル團體及人物トノ交渉等ニ關シテハ特ニ愼重ナラシムル如ク注意ス

アジア歴史資料センター

白王道挺身隊趣意書

満州事變以後ノ國際關係ハマサシク非常時ノ雲行ヲ見セテヰル。ダガ翻ッテ國内ヲ見レバ生氣ハ憔悴シ菜色アリ政黨政治ノ信頼地ヲ拂ヒ思想混沌トシテ歸スル所ヲ知ラナイ。

不幸ニシテ此ノマヽ外難至ラバソノ結果ヤ恐ルベキヂアル。

今日ノ狀態ハ恰モ尊王倒幕ト廢藩置縣ヲ斷行シタ外難ヲ定ッ破セル明治維新ノ前夜ニモ似マサシク歴史的瞬間ヲ包藏セリ。

我等ハ此ノ危機ニ際シ一刻ノ猶豫ナク内昭和維新ヲ斷行シ國内ヲ整備スルニアラズンバ外難ニ當ルコト能ハズト信ズルモノナリ。

ソレ故ニ我等ハ眞劍ナル研究ニヨリテ日本更生ノ正道ヲ發見シコレヲ唱道セザルベカラズ。

アジア歴史資料センター

サレドモ天下ノ大事ハ先ヅ己ヨリ始メ己ヨリ治メヨ。
我等同志ノ團結同行ヲ劃策シ我等ノ住ム町ダケデモ
村ダケデモ正シク歩マシメントス。
コノ主旨ニ從ッテ自ラ相集リタルモノ即チ皇道挺身隊
ナリ

アジア歴史資料センター

皇道挺身隊員守則

守則 第一

挺身隊員ハ地位ヤ、名譽ヤ、金ガ目的デアツテハナラヌ。

制度ガ悪イ爲ニ一般大衆ガ天與ノ尊イモノヲ成長サスコトガ出來ナクナツテ居ル。此ノ間違ツタ制度ヲ改革スルコトニ一切ノ目的ガナクテハナラヌ。一般ノ大衆ガ天與ノ尊イモノヲ充分ニ成長サセ得ル樣ナ社會ガ生レルコト、ソレ自身ガ目的デアツテソレ以外ニ地位ヤ金錢ヤ名譽ヲ求メルコトガアレバソレハ正シク邪道デアル。挺身隊員ハ天意ヲ地上ニ行フモノデアルカラ眞理以外何物モ求メテハナラヌ。

守則 第二

挺身隊員ハ經國濟民ノ志アル者ガ社會奉仕トシテ社會進歩發達ニ貢献努力スル同志ノ集合デアル從ツテ如何ニ努力ヲ拂ツタカラトテ報酬ヲ求メテハナラヌ。隊員ガ隊ノ爲ニ寸レタ

アジア歴史資料センター

犠牲デモ拂ッテ見ラレヨ、ソノ時ハ何トモ言ヘヌ喜ビヲ感ズル。
ソノ喜ビコソガ挺身隊員唯一ノ報酬デアル。釋尊ハ恵ムコトヲ知ラナイ人ニムシ食修業ヲサセテ、恵ムコトニヨッテ感スル心ノ喜ビト満足ヲ知ラセヨウトセタ。隊員ハ隊ノ爲ニ分ニ應ジテ犠牲ヲ拂フ義務ガアルビラヲ貼リ命場ノ整理ヲナシ、行列ニ參加スルナドワナクモ犠牲ヲ拂フコトニ依ッテ感ズル喜ビヲ知ラネバナラヌ。

守則 第三

挺身隊員ハ隊ノ持ツ心理ヲ充分ニ體得セネバナラヌ、何人オラ聞カレテモ返答ニ困ル樣デハ駄目デアル、眞理ヲ知レバ之ヲ分タントスルノガ人間デアル、眞理ノ宣傳ハ隊員ノ義務デアル、シカモ丈ズ之ニハ迫害ガ伴フ。日蓮ハ佐渡ガ島ニ流サレル時悲シム弟子達ニ向ッテ言ッタ

「玉ヲ含ム石ハ砕カレル、今ワレガ迫害サレルノハワレノ内ニ玉ヲ含ンデヰルカラデアル。ワレノ内ニ玉ガナケレバ迫害ガドウシテ起ラウ、ワレ

ニ迫害ノ起ツタコトヲ御前達ハナゼ喜ンダカ」ト
光覺ト迫害トハ必ズ伴フモノデアル。迫害ノ恐ロシイ者ハ隊員タル
ノ資格ガナイ。迫害ヲ押切ツテ眞理ヲ擴メネバナラヌ。

守則　第四

隊員ハ個人ノ素行ヲ愼ネバナラヌ、村ノ模範、町ノ模範デアラネバナラヌ。眞
理ノタメニ一身ヲ犧牲トスル決意ヲ持チナガラ平素ハ家庭ニ於テ、村ニ於
テ、會社ニ於テ、役所ニ於テ四圍ノ師表タラネバナラヌ、天下國家ヲ口ニ
スルモノニ個人的素行ノ治マラヌ者ガ多イ。挺身隊ハ天下ノ仕事ヲ持
ツト共ニ自己ノ修養向上ニ勤ムル人タノ集デアル。社會ノ爲ニモ
ナリ、自分ノ名譽ニモ、錢ニモナル樣ナ仕事ニハ錢ヲ出シテモ志願ス
ル者ガ多ル。所ガ世ノ中ニハ世ノ爲ニハナルカ自分ノ名譽ニモ、錢ニモナ
ラヌ仕事ガ稀ニアル。ソノ仕事コソハ挺身隊員ノミノ爲シ得ル聖
業デアルトイフ自覺ヲ持タネバナラヌ。ソレ位ノ修養ガ全隊員ニ
出來テ居ナクテハナラヌ。昭和革新ハ明治維新位ノ小サイモノデ

バナイ。明治維新ノ志士ノ様ニ直グ成金ニナウテオサマル様ナ程度ノ小人物デハ爲レ遂ゲラレナイ。挺身隊員ハコノ歴史的瞬間ヲ前ニ個人的精神ノ準備ヲ忘レテハナラヌ。

守則第五

一時的ナ熱ヲ出シテモ決シテ社會ヲ動カスコトハ出來ヌ、一寸シタ位他人ハ動カナイ。反對サレレバサレル程何遍デモ何百遍デモ説明セネバナラヌ、相手ガソノ熱心ト誠意ニ動カサレル迄持久戰ヲ張ラネバナラン、一ケ月ヤ、三ケ月熱ヲ出シテモ村ノ人々ハ動カナイソレ位デ熱ノサメル様ナ者ハ隊員タルノ資格ガナイ、自分ガ白熱シテモ社會ノ隅々マデソノ熱ガ傳ハルニハ相當ノ時間ガ必要デアル、天下ノコトハ十年ガ一期トイフ。白熱ノ持久力ガ隊員タルモノノ唯一ノ資格デアル。初メノ熱ガ強クモ直グ冷メテ終フノガアル。聖人モ之ヲ笑ッテ「石地ニ落チタ種ダ」ト言フテヰル。直グ芽ヲ出スガ太陽ガ照ルト枯レテシマウカラデアル。

アジア歴史資料センター

ソノ眞理ガ社會ニ擴マリソレガ生活ニ迄及ブニハ相當ノ時間ガ必要デアルコトヲ知ラネバナラン。

守則第六

挺身隊員ハ決シテ個人的ナ悪口ヲ言ワテハナラヌ。他ノ革新團隊ト國策等ニツイテハ飽ク迄爭ハネバナラヌガ個人的ナ悪口ヲ言ワテハナラヌ。何トナレバ個人的悪口ヲ言ワテ置クト、國策ガ一致シテモ一緒ニ行動ガ出來ナイ事ガアルカラデアル、我々ハ自分ノ名譽ヤ利益ヤ情實ヲ一切清算シテ國策サヘ一致スレバ一致團結セネバナラン。其間私情ナド有テハ相濟マヌ。所ガ個人的悪口ナドアワテハソノ協力一致ヲ妨ゲル事ガ多イ、吾々挺進身隊若クハ吾々挺身隊員タル個人ニ對シテ色々ノ悪宣傳ヲナスモノガアルコトハ豫メ覺悟ヲシテ置ク必要ガアル、例ヘバアル事ヲ無イト言ヒ、無イコトヲ有ルト宣傳スルノ類デアル。シカレソレ等スベテハ時間ガタツト事實ガ明白ニナルモノダカラ傷ツクモノハ

アジア歴史資料センター

悪宣傳ヲナシタ者ダケデアリ信用ヲ落スモノモ亦悪宣傳ヲナシタ者ダケデアル我々ハソンナ悪宣傳ナドヲ決シテ氣ニシナイナラヌ

我々ハ正義ヲ守リ眞理ヲ歩ミ、國ヲ守レバ足リル決シテ他人ノ悪口ナドニ氣ヲトラレ、コチラカラモ悪口ヲシレ返ス様デハ修養ハ未熟デアリ隊員タルノ資格ハナイ。重ネテ言フガ我々ハ國策ト眞理ノタメニハ戰ハネバナランガ決シテ他ノ團隊ノ個人的悪口ヤ悪宣傳ヲナシテハナラヌ。

守則 第七

挺身隊員ハ經國濟民ヲ志ス眞面目ナ人々ノミヲ會員トスルノダガラ錢ニ關スル間違ヲ起サナイコトヲ誇トシタイ。由來社會運動ニハ金錢ニ關スル間違ガ多イ、社會ノタメニヤルト言ウテ集メタ錢ヲ自己ノタメニ使用スル様ナコトガアル富貴モ淫スル能ハズト言フコトヲ孟子ハ大丈夫ノ一ツノ條件トシタ。誠ニ至言デアル。

アジア歴史資料センター

錢ヲ持タシテ低級ナ慾望ヲ動カサヌ者ハ少ナイ。大低錢ガ自由ニナルト低級ナ慾望ニ走ルモノダ、サウデナケレバ只所有シテ一錢モ失フマイトスル、タダ所有シテ放スマイトスル、低級ナ慾望ニ錢ヲ使フモノモ富貴ニ淫セラレタ者デアルガ又只自分ノタメニ貯メテ置カウト言フ者モ亦富貴ニ淫セラレテヰル者デアル

錢ハヨロシク正シキ事ノタメニ使フベキデアル。

從來社會運動ヲシタ者ノ中ニ富貴ニ淫セラレ節ヲ曲ゲ義ニ乖イタ者ガ多イ。挺身隊員ハソノ點ニ充分ノ注意ト戒心ヲセネバナラヌ。

西鄕サンハ爲政者ノ行動ヲ國民ガ氣ノ毒ニ思フ樣デナクテハナラント言ハレタ。挺身隊員ハ今後ノ新日本ヲ背負フ主ヲ人々デアル、非常ニ働ク俸給モ少ナイ、生活モ質素デ國民ガ見テ氣ノ毒ニ思フ樣デナクテハナラン、挺身隊員ハ決シテ富貴ノ爲ニ節ヲ變シ義ニ乖イテハナラン。上ノ方ノ役人ヤ政治家庭、即チ高位高官ノ人ニハ貴ヤニモ淫セラレテ下情モ判ラナイシ、國民ノ氣持ガワカラナイ者

アジア歴史資料センター

ガ多イ。

北條氏時ハ旅僧ニナツテ地方ヲ巡視シタ、ソレハ貴ニ逢セラレル事ヲ恐レタカラデアル。我々ハカカル爲政家ノ出現ヲ希フ。

アジア歴史資料センター

附錄第三

一、目的

秋田縣下各地ノ農村中堅青年ヲシテ兵營生活ヲ體驗セシメ國防觀念ノ鼓吹非常時意識ノ強調ニ努メ以テ鄉黨青年指導ノ中核タラシメ堅實ナル農村ノ興隆ニ參畫セシムルト共ニ兵農一體ノ實ヲ發揚スルニ在リ

二、日時、人員、場所

イ、自四月二十六日　至四月二十八日　二泊三日

ロ、指導者ヲ合シ約百二十名（收容力最大限度）

ハ、指導中隊ニ起居セシム

三、行事

イ、勅語、勅諭奉讀、國家合唱遥拜毎日夕、日朝點呼時

ロ、剛健體操、勅諭奉讀後

ハ、訓練　イ、部隊教練　ロ、行軍　ハ、實包射擊

ニ、修養會　イ、講演（日本精神、農民精神）　ロ、座談會

四、日課隊定概要左ノ如シ

アジア歴史資料センター

日次	午前	午後	夜
26日	午前七時半 入隊到ル	午後一時 寄宿舎ニ帰宿 午後三時半ヨリ一時間半 各個教練	午後六時半 講話 一時間半
27日	午前八時 行軍、貫色射撃	午後 戰闘演習 午後四時ヨリ講演	修養座談會
28日	午前 兵營、新兵器見學	午後 退營	

五、其他

(一)、兵食ノ給シ 銃劍、作業衣袴巻脚絆、雑嚢、飯盒、水筒ヲ貸與シ所要ノ彈藥ヲ携帯クルモノトス

(二)、糧秣及兵器、被服貸與費トシテ一日一人日額五拾錢計壹圓ヲ取纏メ指揮者ヨリ納入セシム

(三)、使用彈藥費ハ別ニ納入セシム

アジア歴史資料センター